

1. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ミンダナオ島ピキット・マリダガオ河沿い地域において、紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) フィリピン共和国における開発ニーズ</p> <p>フィリピン政府は、「フィリピン開発計画 2011-2016」を策定し、その中で「ミンダナオの平和構築」を最優先事項の 1 つとして掲げている。一方、日本政府も 2008 年の「対フィリピン国別援助計画」及び 2012 年の「対フィリピン国別援助方針(案)」において、「ミンダナオにおける平和と開発」を重点開発課題として掲げ、NGO との実施面での連携の方針が謳われている。</p> <p>(ロ) 国レベルでの当事業の必要性</p> <p>ミンダナオ島では、現在まで続く政治的な武力衝突と地域レベルでの「暴力の文化」により、人々や地域の可能性は妨げられ、同国において貧困率、実質地域総生産(GDP)、またその保健・医療環境、農業生産性、基礎的インフラ、教育インフラの全てにおいて同国の最低水準となっている。</p> <p>(ハ) 町レベルでの事業の必要性</p> <p>ミンダナオ島の紛争多発 3 地域の 1 つに同島中部に位置するコタバト州ピキット町がある。町の人口は約 10 万人で、多くはイスラム教徒であるマギンダナオが 73%、多くはキリスト教徒であるセブアノが 25%を占める。この地域はこれまで幾度となく紛争の激戦地となり、人々は避難と帰還を繰り返してきた。また当地では、現在でも、子どものケンカや隣近所での家畜を巡る口論でさえも、大きな氏同士の武力衝突にまで発展する「暴力の文化」が蔓延している。</p> <p>紛争を経験してきた子どもたちの多くは、大切な人や財産を失い、心の傷を抱えている。そして多くは、政府・反政府軍の衝突や氏同士の争い、そして地域での「暴力の文化」が蔓延している背景について知る機会も限られてきた。地域の平和と安定のために、地域に深く根付く「敵意」や「不信感」を取り除くことが求められている。</p> <p>また、大規模な武力衝突が落ち着いた現在、復学を望む子どもが増える一方、教育基盤の整備・復興は遅れており、現在も多くの子どもたちが教育の権利を剥奪されている。2007 年の時点で、同市の就学経験のない人口は約 19%、小学校以下で教育を終えているものも含めると約 69%にもものぼる。これは、マニラ首都圏の約 28%と比べても極めて高い。</p> <p>学校教育を受ける機会がなかった若者たちは、生計手段の選択肢が狭まり、生計を立てるために(政府・非政府軍として、又は私的軍や強盗集団として)武器を持つことが多い。また、地域の大人の間で広く認識されている「キリスト教徒対イスラム教徒」といった二項対立の解釈も、学校という視野を広める場が与えられなかった子どもは、より強まるケースが多い。地域において、「学</p>

教育達成率 (2007)	ピキット	マニラ (NCR)
無就学経験	19.2%	3.7%
幼稚園以下	3.1%	2.3%
小学校以下	46.8%	22.3%
中学校以下	21.7%	37.4%
大学以上	7.9%	28.5%
データなし	1.4%	2.4%

<p>M7:Tinutulan, Balabak, Gototan, Nabundas, Balatikan, Balungis, Nunguan</p>	<p>校教育を受ける権利」の欠如は、平和への妨げとなっている。この現状に対してピキット町政府は、平和活動の推進や平和のための初中等教育環境の向上を目指しているが、その取り組みは十分とは言えない。</p> <p>ピキット町北東部に、同町人口の 21%を占め、マリダガオ河流域の M7 と呼ばれている 7 つの村がある。98%の人口がイスラム教徒マギンダナオ族でもあるこの地域では、長年外部からの介入も平和活動も行われてこず、子どもや大人が共に心の傷を癒し、地域レベルの平和的紛争解決を促進する機会が求められてきた。</p> <p>(ニ) フェーズ 1 の進捗</p> <p>2011 年 11 月より当団体は、3 年計画に基づき、この 7 つの村において「紛争被害に遭った子どもたちの初中等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること」を上位目標に活動を行ってきた。現在実施中のフェーズ 1 では、荒廃の著しいティヌトゥラン村のスルタン・メモリアル中学校 6 教室の校舎建設が進んでおり、7 月頃に完成し、約 300 名の教育環境の向上が見込まれている。また、同時並行で行ってきた平和活動を積極的に促進する学校（平和の学校：School of Peace）をつくる研修では、これまでに予定の 12 回の研修が終了し、ティヌトゥラン村の小中学校は 2012 年 10 月までに、教育省から「平和の学校」の認定を受ける見込みとなっている。</p> <p>(ホ) フェーズ 2 の必要性</p> <p>ティヌトゥラン村の周辺に位置するヌグアン村、バラバック村、バラティカン村の校舎の荒廃は著しく、近年では入学した子どもたちの多くが途中で通学を止めるケースも相次いでいる。ヌグアン村の中学校は、生徒数 265 名に対して、竹でできた小屋が 5 つあるのみで、教育省の基準を満たす建物は 1 つもなく、生徒数 395 名のバラバック村の小学校、生徒数 251 名のバラティカン村の小学校も同様に、子どもたちは 20 年以上前に建築され、雨漏りがする校舎での勉強を余儀なくされている。</p> <p>また、この 3 つの村の小中学生、教師、地域の大人たちは、現在実施中のフェーズ 1 の事業において、「平和の学校準備研修」に参加し、平和の概念や平和の学校のコンセプトについて学んでいる。これまで限られてきた地域における紛争を振り返り、中立なファシリテーターのもと話し合う機会が与えられ、3 つの村では、地域の紛争を解決していく機運が生まれている。</p> <p>長年放置されてきた 3 つの村の教育環境が目に見える形で改善され、同時に地域において紛争を回避し、解決する技術を得る方法が「平和の学校(School of Peace)」という形で制度化されることで、今こそ同地域に平和がもたらされることが期待されている。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>活動内容</p> <p>ハード 別添 1～5 を参照</p> <p>(イ) <u>ヌグアン中学校（ダトゥ・エンバック・マンガンシン・メモリアル中学校）の新築 1 棟 3 教室の建築と備品整備</u></p>

(ロ) バラバック小学校の改築と備品整備

(ハ) バラティカン小学校の改築と備品整備

ソフト 別添 6～9 を参照

(ニ) 「平和の学校」(SOP:School of Peace) 準備活動

3 地域 (バルンギス村、ゴコタン村、ナブンドス村) の小中学生と地域リーダーが、平和の概念や、平和の学校について学ぶオリエンテーション。「平和の学校」研修を効果的に実施するための準備活動として実施する。

【参加学校名】

(a) バルンギス村(1校) : バルンギス小学校

(b) ゴコタン村(3校) : ゴコタン小学校、エドル・ダウドゥ・メモリアル小学校、ゴコタン中学校

(c) ナブンドス村(1校) : ナブンドス小学校

【実施回数】

(a) 小学生対象 : 20 名×4 日×4 小学校

(b) 中学生対象 : 20 名×4 日×1 中学校

(c) 地域リーダー (バランガイ役員と宗教指導者たち) 対象 : 15 名×4 日×3 地域

(ホ) 「平和の学校」(SOP:School of Peace) 研修

フェーズ 1 で準備活動を経た 3 地域 (ヌグアン村、バラティカン村、バラバック村) の小中学校における平和教育活動及びフェーズ 1 で実施済の 1 地域 (ティヌトゥラン村) におけるフォローアップ活動。

【参加学校名】

(a) ヌグアン村 (3校) : ヌグアン小学校、ガナシ小学校

ダトゥ・エンバク・マガンシン・メモリアル中学校

(b) バラティカン村 (2校) : バラティカン小学校、セニョール・マラオ小学校

(c) バラバック村 (1校) : バラバック小学校

(d) ティヌトゥラン村 (2校) : スルタン・メモリアル小学校、スルタン・メモリアル中学校 ※フォローアップ活動

【実施回数】

ー小学生対象 :

(a) 「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」

90 名×2 日×5 校

(b) 「ピアメディエーションによる平和的アプローチ」

15 名×4 日×5 校

(c) 「人生と平和」 20 名×4 日×5 校

(d) 「平和を創る力」(平和的視点から学ぶリーダーシップ研修)

20 名×4 日×5 校

ー中学生対象 :

(a) 「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」

80 名×2 日×3 回、

(b) 「ピアメディエーションによる平和的アプローチ」

15 名×4 日×1 校

	<p>(c) 「人生と平和」 20 名×4 日×1 校 (d) 「平和を創る力」(平和的視点から学ぶリーダーシップ研修) 20 名×4 日×1 校</p> <p>－教師対象：(a) (b) (c)は同じ参加者を対象 (a) 「人生と平和」 43 名×4 日 (b) 「心と平和」 43 名×4 日 (c) 「授業計画作成研修」 46 名×4 日×2 回 (d) 「学校と平和」(紛争解決のための平和的アプローチ) 43 名×4 日</p> <p>－地域リーダー対象： (a) 「紛争解決のための平和的アプローチ」 45 名×7 日 (b) 「平和的自治と平和活動」 45 名×4 日 (c) 「平和的ファシリテーションの技法」 45 名×4 日</p> <p>－子ども、教師、地域全体を対象： (a) 「ミンダナオ平和週間」 毎年 11 月末から 12 月初めにミンダナオ全域で行われる「平和週間」に合わせて、ピキット町で行われる「ミンダナオ平和週間」に参加し、地域内外に「平和の学校」活動の啓発を実施 (b) 「平和の学校」宣言式 研修を終了した各学校が教育省より「平和の学校」証書を受けとり、「平和の学校」宣言式を行うことで、地域内外に「平和の学校」の啓発を実施。</p> <p>－「平和の学校」を対象： (a) 「平和の学校フォローアップ研修」 フェーズ 1 にて、「平和の学校」となったティヌトゥラン村におけるフォローアップ研修。 小学生対象：20 名×3 日、中学生対象：20 名×3 日、 教師対象：20 名×3 日、地域対象：20 名×3 日</p> <p>(へ) 「ミンダナオ子ども議会」の開催 マギンダナオやマノボ、マラナオ、ビザヤ等多文化多民族の子どもたちによる相互信頼醸成活動及びミンダナオの将来について話し合う場。 【実施回数】 40 名 (子ども 32 名、教師 8 名) ×4 日×1 回</p> <p>中長期計画 当事業は、3 年計画の 2 年目に該当する。3 年間をかけて、M7 全域において、「平和の学校 (SOP:School Of Peace)」を広げ、平和教育モジュールを作成するとともに、地域の教育施設を整えることによって、持続可能な草の根レベルでの平和定着と MDGs の達成に寄与する。</p>
(4) 持続発展性	<p>教室や備品の維持管理は、管轄であるピキット北部教育省が行う。これに対し、MOOE (Maintenance and Other Operation Expenses) 予算措置、生徒数増加に見合った教師の増員を含む維持・管理について正式に文書を交わす。平和活動は、教育省と協働しカリキ</p>

	<p>ュラムに加える予定である。当法人が、事業終了後最低 5 年間は使用状況のモニタリングを行う。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(成果 1) ヌグアン中学校、バラバック小学校、バラティカン小学校の約 400 名の子どもたちの教育環境が整えられている。(指標 1) 事業終了時、同校の 400 人以上の子どもたちが、雨漏りがしない校舎で、自分の机と椅子を使用し、学ぶことができている。(建築後のモニタリングシートにて確認)</p> <p>(成果 2) ヌグアン村、バラバック村、バラティカン村にある小学校と中学校が、「平和の学校」宣言を行っている。(指標 2) 同校に置いて、宣言式が行われ、且つ教育省から「平和の学校」証明書が発行されている。(活動記録及び証明書の存在にて確認)</p> <p>(成果 3) 500 人以上が暴力に頼らない争いの回避方法を知っている。(指標 3) 研修終了時のアセスメントシートにおいて、500 人以上が暴力に頼らない争いの回避方法を回答している。(アセスメントシートにて確認)</p> <p>(成果 4) 30 名以上の子どもが、ミンダナオのビジョンを表現し、それに向かって取り組む用意が出来ている。(指標 4) 30 名以上の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」の中で将来のミンダナオの姿について発表し、具体的な行動計画をつくることができている。(活動記録とアセスメントシートにて確認)</p>